

平成28年度

学校支援地域本部事業

報告書



愛知県教育委員会

## 目 次

はじめに	1
活動報告	
豊明市「未来のまちづくりを担う人材の育成」	2
北名古屋市「市民協働による学び支援推進事業と学校支援活動」	4
江南市「江南市こども未来塾に関する報告」	6
大口町「平成28年度大口町地域未来塾事業について」	8
津島市「地域学校の協働と次代につなぐ地域づくり」	10
大治町「学習支援を通しての青少年健全育成と地域の活性化」	12
常滑市「常滑市地域未来塾の開設」	14
武豊町「武豊町地域未来塾事業 ゆめたろう塾」	16
みよし市「みよし未来塾」	18
田原市「学校・福祉・地域の連携による学習支援」	20
地域コーディネーター研修会	22

## はじめに

「学校支援地域本部事業」は、平成18年に改正された教育基本法で新設された「学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力」の規定を具体化する方策の柱として、学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子供を育てる体制を整えることを目的とした事業です。平成20年度から文部科学省の委託事業として開始され、平成23年度からは補助事業となり、これまで発展・継続されてきています。

愛知県教育委員会では、社会が複雑多様化し、子供を取り巻く環境も大きく変化するなかで、これからの教育は、これまで以上に学校・家庭・地域の連携協力のもとで進めていくことが不可欠であるとの認識のもと、平成20年度より昨年度までの間にのべ11市町の学校支援地域本部の活動を支援してきました。

そして、平成28年度は、これまでの趣旨に沿って、教員OBや大学生等の地域住民の協力による、原則無料の学習支援である「地域未来塾」の実施に特化し、これを支援する事業としました。本事業の推進により、家庭での学習が困難であったり、学習習慣が十分に身に付いていなかったりする中学生等を対象とした学習支援を通じて、地域で人と人との関わりを広げて絆を結んでもらい、学んだことを人に役立て、生きがいを感じてもらえるような、学びの循環を構築したいと考えています。

そうしたなか、今年度、「地域未来塾」に取り組まれた10市町の御尽力により、一定の成果を上げていただき、ここに、実施状況や課題を含めた、報告書としてまとめることができました。文部科学省は、「地域未来塾」を平成31年度末までに半数の中学校区へ設置することを目標値としています。今後、他の市町村において「地域未来塾」のみならず、地域学校協働活動の充実に向けてお取り組みになるうえで、大いに参考にしていただければ幸いです。

結びに、本冊子作成にあたり御協力いただきました各市町の関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

平成29年3月

愛知県教育委員会

# 「未来のまちづくりを担う人材の育成」

－やる気を育てる「とよあけ どよう塾」の取組を通して－

豊 明 市

## 1 事業のねらい

豊明市は、尾張東部に位置し、人口が約69,000人の都市である。南部には、名鉄本線が走り、前後駅は急行も停車するため、名古屋市のベッドタウンとして発展を遂げてきた。また、市内にはブラジル人をはじめとしてフィリピン人や中国人など様々な国の方が2,700人ほど生活している。

市内には小学校が9校と中学校が3校あり、中学校の規模は3中学校とも生徒数が600人台、学級数は20学級と中規模の学校である。豊明市教育委員会は、平成26年度から「豊明市学力向上プラン」を作成し、小中連携による学力向上を目指した取組を行ってきた。そして、平成28年度より義務教育を修了する中学生を対象に基礎的な学力の向上を図る目的で、豊明市は行政を挙げて土曜日を補充学習の機会とすることにした。

## 2 事業計画

### (1) 開催日時・場所

開催日時	毎月第2・4土曜日	午後1時00分～午後4時50分
	【中学1年生】	午後1時00分～午後2時50分
	【中学2・3年生】	午後3時00分～午後4時50分
	*冬季期間（11月～1月）	午後1時00分～午後4時05分
	【中学1年生】	午後1時00分～午後2時25分
	【中学2・3年生】	午後2時35分～午後4時05分

開催場所 豊明市役所内の会議室

### (2) 指導者

- ・退職教員2人（塾長1人、数学担当1人）
- ・民間企業勤務のALT(Assistant Language Teacher)(オランダ人)1名（英語担当）
- ・地域在住の外国人（ニュージーランド人）1名（英語担当）
- ・ボランティア（地域住民）1名（英語担当）
- ・ボランティア（大学生）3名（数学担当）

### (3) 指導内容・方針

学習する教科は、「数学」と「英語」のみとし、入試対策を目的とするのではなく、基礎的な学力の向上を目指している。塾へ通っていない生徒を対象としており、日頃の学習でつまづいているところを一つでも解消して帰宅させることをモットーに、わかりやすく丁寧に指導している。学習の流れとしては、基本的に学習内容の確認を全体で行い、その後、学習課題に取り組むという一斉指導と個別指導を取り入れながら行っている。

### (4) その他

「とよあけ どよう塾」の参加費は無料であるが、該当学年の「数学ワーク」（1,242円）と「英語ワーク」（1,242円）を学習教材として1冊ずつ購入し、1年間かけて取り組むようにしている。

### 3 事業の実際

#### (1) 募集方法

4月初旬 「とよあけ どよう塾」参加申込書を各中学校で全校生徒に配付  
4月18日(月) 申込締切(提出先は、各中学校の教頭)  
参加申込書の回収(各中学校の教頭から豊明市教委へ)  
5月初旬 「とよあけ どよう塾」開始

#### (2) 生徒の参加状況

参加している生徒の人数は、右のとおりである。学年が上がると塾に通い出す生徒が増え始めるため、中学1年生の割合が高くなっている。途中から塾に通い出す生徒もおり、保護者から「塾に通い始めたので、どよう塾をやめさせていただきます。」という連絡が数件入っている。一方、入塾締切後の参加申込も数件あり、やる気を尊重して適宜受け入れている。

1年生；41名
2年生；26名
3年生；12名
合計；79名

平成28年12月10日現在

また、開催日が土曜日ということで部活動と重なる時があるが、生徒と保護者の意向を尊重し、欠席する場合は必ず連絡を入れていただくように依頼している。毎回の欠席率は、34%ほどである。

#### (3) 学習の状況

参加生徒数が約80名、そして使用できる会議室も3部屋と限られているため、右のような時間割を組んで学習している。

英語の学習では、2名のネイティブ講師がいるため、学習の進み具合が速い生徒に対しては、別室において英会話の学習を行うなど、習熟度別の学びも取り入れている。

外国籍生徒の基礎学力向上も目指しているが、現在通っているのは中国籍の生徒1名のみであり、外国籍家庭への周知が必要である。

午後1時～午後1時50分	中学1年生コース(1限)
	男子(13名) 英語
	女子(28名) 数学
午後2時～午後2時50分	中学1年生コース(2限)
	男子(13名) 数学
	女子(28名) 英語
～ 1年生と2・3年生の入れ替え～	
午後3時～午後3時50分	中学2・3年生コース(1限)
	2年生(26名) 数学
	3年生(12名) 英語
午後4時～午後4時50分	中学2・3年生コース(2限)
	2年生(26名) 英語
	3年生(12名) 数学

### 4 成果と今後の課題

#### (1) 成果

「とよあけ どよう塾」開始当初は、保護者の意向が強くて、どちらかというと生徒は消極的な参加状況であった。しかし、回数を重ねるごとに指導者やボランティアとの良好な人間関係が築かれ、積極的な参加状況に変わってきており、今後は楽しみである。

#### (2) 今後の課題

指導者の人材確保が、喫緊の課題である。本事業の開始に当たっては最高の布陣であるが、今後は常に情報を地域に発信する必要がある。特に学生ボランティアを確保するためには、学生にとって魅力的な事業であると実感できる取組の工夫が必要である。

# 「市民協働による学び支援推進事業と学校支援活動」

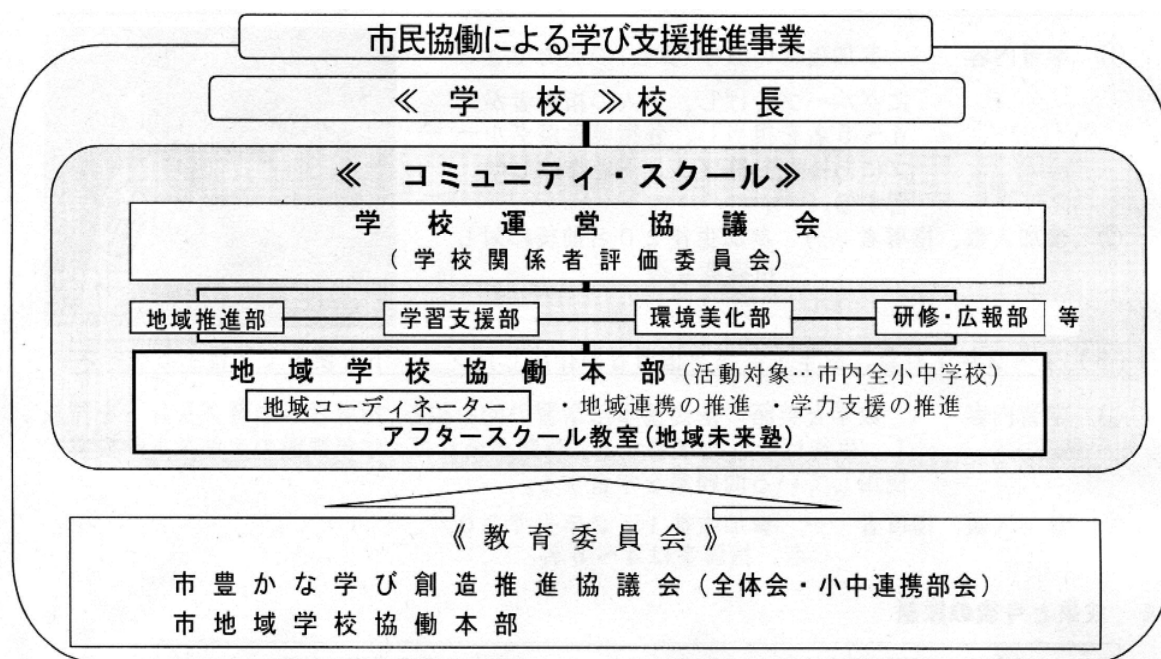
－アフタースクール教室(地域未来塾)を通じた学び支援－

北 名 古 屋 市

## 1 事業の概要・ねらい

北名古屋市は、市民が主役となって豊かな暮らしを目指す「市民協働のまちづくり」を推進しており、その担い手の育成や協働環境の整備などの施策が様々展開されている。その中核として、「学校運営協議会制度」と「学校支援地域本部（現地域学校協働本部）」を平成24年に同時に導入し、学校と家庭・地域が一体となって、子どもたちの生きぬく力と学力の向上を目指し、学び支援事業の推進を図っている。

その中でも特に学習が遅れがちな生徒に焦点をあて、「アフタースクール教室（地域未来塾）」を、地域力を活用する方向で展開し、学習習慣の確立と基礎学力の定着に向けて、以下の実践を推進した。



## 2 事業の実際 [アフタースクール教室(地域未来塾)]

### (1) アフタースクール教室のねらい

学習が遅れがちな中学生を対象に、学びの場を設けることにより、生徒自身が自らつまづきに気づき、主体的に学ぼうとする姿勢をはぐくみ、基礎基本の定着を図る。

### (2) 実施校区

市内6中学校区

師勝中学校区

西春中学校区

白木中学校区

訓原中学校区

熊野中学校区

天神中学校区

### (3) 会場

各中学校の空き教室 または 図書室・会議室等

### (4) 実施日・実施回数

学校によって異なるが主に次の時間を活用する。

○放課後（特に部活動がない日） ○土曜日

○長期休業中 \* 年間平均20回～30回ほど実施

### (5) 指導者

○ 北名古屋市地域学校協働本部に登録されている学生や地域ボランティア

○ 教員OB（教員免許保持者）等



## (6) コーディネーターの役割

- 地域学校協働本部の統括コーディネーターと各学校の地域コーディネーターが、学校や生徒の実情を捉え、学校の先生や学校教育課と連携して地域人材の発掘をする。また、学校運営協議会でもアフタースクール教室を議題として取り上げ、地域人材の情報網を構築する。

## 3 アフタースクール教室（地域未来塾）の具体例

### (1) 3年生対象に、自分が不安を感じている教科の学習を行い、それを支援するケース

- ① 学習内容 … 授業で使用している問題集、家庭学習用の問題集を持参し、指導者に質問しながら自学自習する。
- ② 参加人数、指導者 … 参加生徒20名前後に対して、指導者3名。

### (2) 1年生対象に、教科を数学に絞り、つまずいたところから徹底して復習するケース

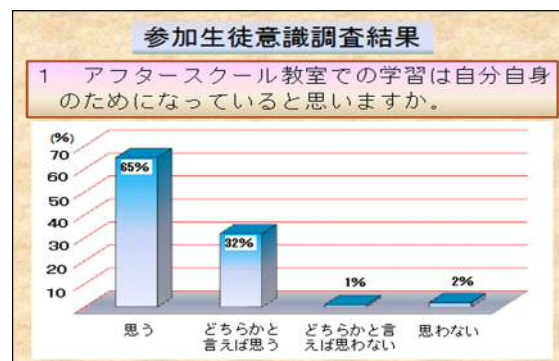
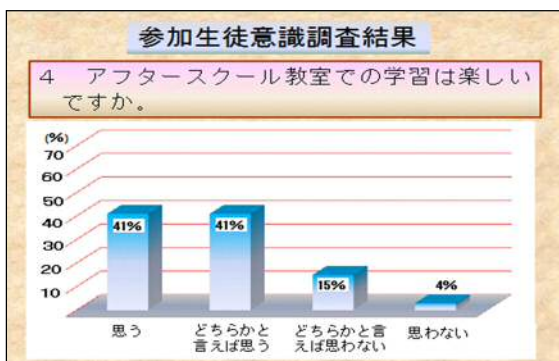
- ① 学習内容 … 参加生徒の数学(算数)の能力でさらにグループ分けし、一人の指導者が4～5名を担当し、各指導者がグループにあった計算プリントを作成し学習する。
- ② 参加人数、指導者 … 参加生徒20名前後に対して指導者4名。



### (3) 1・2年生対象に、指導者が作成したプリントを使って、数学・英語を学習するケース

- ① 学習内容 … 数学と英語の基礎基本習得に学習の的を絞る。指導者が学習プリントを作成し、生徒はそれを学習する。時間が余れば、学年課題のテキストや授業で使用している問題集を学習する。
- ② 参加人数、指導者 … 参加生徒1・2年生で20名。指導者は4～5名。

## 4 成果と今後の課題



「すべての子どもに手を差し伸べよう」と、学びの場を設けて6年が経過しようとしている。全参加者130名への意識調査でも、自分自身のためになっていると感じている生徒が97%に及ぶなど、学びの裾野は着実に広がっている。

アフタースクール教室は、参加する生徒に「わかる」を実感させる場である。今勉強していることがわかれば、学習が楽しくなる。楽しければもう少し勉強してみようと思う。わかる部分が出てくるからこそ、わからない点に気づき質問が出る。本教室は、そんな体験の積み重ねであるし、そんな地道な努力の継続である。

今後も、コーディネーターと学校、また市教育委員会がそれぞれの役割を果たし、一人でも多くの子どもたちの笑顔が見られる実践を続けていきたいと考えている。

# 「江南市こども未来塾に関する報告」

江 南 市

## 1 事業のねらい

「小学生で習得すべき知識が身につけていない生徒⇒授業についていけず、ずっと苦手なまま」  
この構図を打破できるよう、平成28年度より市内全中学1年生を対象に「こども未来塾」をスタートする。

科目については、今まで小学生を対象に算数を教えてきた経験を生かせる数学とする。小学校算数まで立ち返りながら、基礎的な計算力を高めることを目標に、塾を実施する。

## 2 事業計画

### (1) 開催日時・場所

#### ①開催日時

平成28年10月より 第2・4土曜日（原則）

午後2時～午後4時 年間12回実施予定

#### ②場所

江南市防災センター3階 仮眠待機室・救護室

### (2) 指導者

コーディネーター（1名）

講師（6名）

学習アドバイザー（6名）

### (3) 指導内容・方法

#### ①対象

・市内全中学1年生を対象として、基礎的な計算力をさらに向上させたい生徒を募集

#### ②グループ編成

・講師1名・学習アドバイザー1名を1班として、6班を編成

・講師がメイン、アドバイザーをサブとして、1班4～5名の生徒を指導

・取りまとめ役としてコーディネーターを設置

#### ③自主学習主体

・基本的に参加生徒が教科書やプリントを持ち込み学習し、理解不十分な点を講師等に確認する。

・講師も生徒の学習の進み具合に合わせてプリント等を準備し、理解を図る。

#### ④コーディネーターによる指導

・各班の考えや問題点を共有するため、コーディネーターが毎回通信を作成している。



#### (4) 生徒の出席状況

全生徒数 28名

開催日	出席数 (名)	出席率 (%)	開催日	出席数 (名)	出席率 (%)
10月8日	20	71.4	10月29日	15	53.6
11月12日	16	57.1	11月26日	23	82.1
12月10日	18	64.3	12月24日	18	64.3

### 3 事業の実際

10月8日(土)第1回子ども未来塾では、算数の基礎的な計算力を把握するため、プレテストを実施した。その結果を基に、各班で生徒の苦手箇所を把握して、今後の指導の判断材料とした。

第2回目以降は、生徒自身が持参した課題や、プレテストを基にして講師たちが用意したプリントに取り組んだ。また、指導については講師が各生徒の指導計画を作成し、計画的に指導にあたる環境づくりに取り組んでいる。

### 4 成果と今後の課題

#### (1) 成果

開始3ヶ月という短い期間ではあるが、講師たちと一緒に基礎的な計算問題に取り組むことで、確実にできる部分は増えている。

#### (2) 課題

設置の主な目的は、小学校での四則計算、小数、分数等で理解が十分でなかった生徒への補習であるが、実際に通っている生徒の学力は様々である。指導計画を作成しているが、いかに個人差に対応した課題を設定して、計算力の向上につなげられるかが課題である。

また、中学生ということで、学校での部活動も始まっている。加えて、全ての学校行事と重ならないように塾を実施することも難しいため、継続的に生徒が参加できるようにすることも、今後の課題である。



初回オリエンテーション時の様子

# 「平成28年度大口町地域未来塾事業について」

—みんなのスタディベース、サポートルーム「さくら」—

大口町

## 1 事業のねらい

我が国は子どもの6人に一人が相対的貧困に陥っている格差社会と言われている。本町においても、要保護・準要保護家庭が7パーセント程度あり、例外ではない。進学・意欲があり「もっと学びたい」と思っても、家庭の環境や経済状況を考えると躊躇せざるを得ない生徒がいることは容易に想定される。そのような生徒への支援施策は「貧困が世代を超えて連鎖すること」の解消に役立ち、教育的格差解消に役立つと考えている。

サポートルーム「さくら」のねらいは、苦境にあっても将来においてそれぞれの可能性を開花させ、自分の夢や希望を実現するための学ぶ場所を提供すること。そして、生徒同士の交流や生徒と指導者との交流のなかで悩みを言ったり聞いたり、雑談したりすることを通じてコミュニティ形成を図っていくことである。

## 2 事業計画

### (1) 開催日時・場所

平成28年7月27日（水）より開室

毎週水曜日 午後5時30分から午後8時まで

（祝日及び年末年始は休み）

### (2) 指導者

現役大学生6名

教員経験者4名

### (3) 指導内容・方法

生徒がやりたい事（宿題やテスト勉強など）を持ち込み勉強する自習スタイル。わからないところは現役大学生や教員経験者に教えてもらうことができる。

基礎的な内容が身に付いていない生徒については、教員経験者の判断でミニ講座を開く場合もある。

### (4) その他

「学習スペースであるとともにコミュニケーションの場でもある」というのがサポートルーム「さくら」の特色の一つになっている。そのため、学習時間の合間に必ず一斉休憩を15分程度取り、生徒同士あるいは指導者とともに談笑する時間を設けている。休憩時間はお菓子の提供も行っている。



休憩中の様子①



休憩中の様子②

### 3 事業の実際

- ・登録生徒21名（平成29年1月6日現在）

内訳は中学1年生11名、中学2年生7名、中学3年生3名である。

10～14名程度の生徒が毎週来室しており、5～8名の指導者が毎週指導を行っている。

生徒1～3名に対し指導者1名の割合で指導を行うが、生徒に対する指導者の割り当てはできる限り毎週変えるようにしている。

- ・基本的な学習姿勢

自分で課題を選択（準備）→自力で考え、問題を解く。

→分からないときは、自ら指導者に聞く。

- ・指導者の心構え

- ① 自ら解こうとする意欲を喚起する。
- ② 分かる喜びを体感させる。
- ③ 分からないところを聞ける雰囲気作りに努める。

### 4 成果と今後の課題

サポートルーム「さくら」では、登録の際に他の学習塾に通っていないことを条件としているため、多くの生徒が学習塾に通っているであろう中学3年生は登録が少なく、中学1年生、2年生がほとんどである。これは、大口町の地域未来塾事業が貧困対策からスタートしており、学習塾に通えなくても、学校以外での学習機会を無料で提供することが事業のねらいの一つだからである。

多くの生徒は毎週来室しているが、無料であることもあり、登録後数回来てその後来室しなくなるという生徒もいる。来室生徒からは、「分かりやすく指導してもらえる」など概ね好評であり、指導している指導者も生徒たちの笑顔が励みになっている。

また、来室している生徒のなかには、諸事情により学校に行くことができていない生徒もおり、そのような生徒がサポートルーム「さくら」には毎週通えている。ここでは遅れている学習のサポートをするとともに、他の生徒たちと交流することでその生徒の支えとなっている面もあり、サポートルーム「さくら」というスペースが一定程度の役割を果たしているのではないかと考えている。

今後の課題としては、指導者の継続的な確保が必要だと感じている。

指導者は、現役大学生が中学生と年齢も近く、話しやすい関係であるという利点があるため、メインの指導は現役大学生が大きなウェイトを占めている。しかし、現役大学生は学業に忙しい身であるため、毎週コンスタントに来ることができていないのが現状である。そのため、できるだけ多くの現役大学生を確保し、サポートルーム「さくら」の指導力を一定の水準に保っていきたいと考えている。



指導の様子①



指導の様子②

# 「地域学校の協働と次代につなぐ地域づくり」

— 学習支援活動を通して —

津 島 市

## 1 事業のねらい

市内4中学校の内、神守中と天王中の2校が、学習習慣の定着と学力向上を目的に地域未来塾事業に取り組んでいる。既に神守中では7年前から取り組んでいるため、天王中の今年度のスタートに指導・助言をして、情報交換をしながら運営している。

## 2 事業計画

### (1) 開催方法等一覧

実施校名	神守中学校		天王中学校
運営団体	神守中学校地域学校協働本部		天王中学校 地域学校協働本部
開始年度	平成22年度	平成23年度	平成28年度
開催曜日	土曜日	月曜日	土曜日
ねらい	受験対策を中心とした学習指導支援（面接・作文も対応）	自学自習の形態の中で分からないところを聞いたり、学習する習慣を身に着けたりする学習指導支援	受験対策を中心とした学習指導支援（面接・作文も対応）
通称	ドテラ（土曜寺子屋）	月テラ（月曜寺子屋）	ござてん（Goes天王）
開催回数	10月～3月の20回	10月～2月の10回	10月～3月の15回
開催日	10月8, 15, 22, 29日 11月5, 12, 19日 12月3, 10, 17日 1月7, 14, 21, 28日 2月4, 11, 18, 25日 3月4, 11日（お別れ会）	10月24日 11月7, 14日 12月12, 19日 1月16, 23, 30日 2月6, 27日	10月22, 29日 11月12, 19日 12月3, 10, 17日 1月7, 14, 21, 28日 2月4, 18, 25日 3月4日
開催時間	午前9時30分～午前11時30分	午後3時～午後5時	午前9時30分～午前11時30分
対象学年	中学校3年生	中学校1～3年生	中学校3年生
開催場所	神守中図書室	神守中進路指導室	天王中普通教室
生徒数	14名	15名（1年7, 2年7, 3年1）	6名
退職教員数	3名	5名	0名
大学生等ボランティア数	15名	3名	10名
運営地域ボランティア数	2名	3名	4名
卒業生ボランティア（再掲）	3名	3名	5名
参加生徒保護者数	2名	3名	1名
指導形態	1対生徒1～2名の指導	1対生徒2～3名の指導	1対生徒1～2名の指導
ボランティア交通費	一部支給	一部支給	一部支給
ボランティア謝礼	回数に応じて図書カード	回数に応じて図書カード	回数に応じて図書カード

### (2) 指導者及び支援者

学習会は、地域学校協働本部のボランティアや保護者が中心に運営し、生徒への学習指導は、校区をはじめ、県内各地から応募した大学生ボランティアや退職教員が当たっている。とりわけ、大学生ボランティアについては、市教委で一括募集し、各校のニーズに応じて派遣をする形で対応している。12月現在、県内21大学55名が登録している。

### (3) その他

両校とも、生徒・保護者・ボランティア・本部との連絡を密にするため、生徒個人ファイルを使用し、生徒の振り返り・学習内容・指導状況・アドバイス・保護者のコメントを相互に書き込みながら、信頼関係を重視している。コーディネーターはカギの管理を兼ねて、支援状況の把握や生徒のニーズとボランティアとのマッチングを行い、目的達成に寄与している。また、安全管理面から、出欠席の確認を確実に電話連絡等で実施している。なお、生徒募集や保護者の見学・体験は、随時受け入れている。

### 3 事業の実際

天王中は、今年度からの実施に向け、運営について5月から会議を重ね、会場の清掃作業をはじめ、地域スタッフによる入念な準備の末の開催に至った。スタートして、日によ



【「ござてん」の様子】

っては、大学生ボランティアの確保に苦慮したが、周囲の協力を得てスムーズに運営することができた。両校の取組は、ほぼマンツーマンの指導で、生徒の意欲喚起と学力の向上に非常に役立っている。どちらも約半数の生徒が通塾しているが、初めて体験する生徒には新鮮で、分かりやすいと好評である。大学生ボランティアの大半が、他校での経験を生かして、生徒のニーズに応える術を心得ており、運営スタッフも感謝している。

神守中は7年間の継続的な取組から、安定した運営が行われている。「月テラ」参加生徒の8割が成績向上したと、取組に関わる者のモチベーションアップにもつながっている。

### 4 成果と今後の課題

生徒からは、「学校では聞けなかった問題を教えてもらって、分かるようになった」「苦手な所をどう勉強していけばいいのか、少しずつ分かってきた」などの感想、保護者からは、「子どもが1週間分の授業で分からない所に付箋を付けて持って行くようになった」「少しずつ自信がついたと思う」「楽しんで、帰ってきた」「教えてもらった事を、自宅でも取り組んでいる様子がみられるようになった」など、感謝の言葉が多くみられた。また、我が子の前向きな態度への変化に、今後の永続的な取組を望む声が多く聞かれる。

大学生ボランティアからは、「どうしたら分かってもらえるのか、教え方の勉強になるから楽しい」「教えるのは難しいけれど、分かってもらえた時は嬉しい」「何より自分も勉強になるのと一緒に勉強できるのが楽しい」との声が多い。

退職教員は、「心地良い刺激があり、大学生との交流も楽しい」との感想をもつ。

学校の先生方は、授業では学習意欲があまり見られない生徒が、「ドテラ」では集中して取り組んでおり、授業での生徒の様子によい変化が出てきたことを実感している。また、「勉強が楽しくなった」との生徒の声もあって学校側に好評である。

運営スタッフは、本当に勉強しなくてはいけない生徒や、塾に通えない生徒がまだいるのではないかを気にしている。学校と連携はとっているが、個人情報の問題や家庭の事情もあり難しい。今後、方策を探っていきたい。

これまで取り組んできたような学習支援を継続する必要性を強く感じるが、そのためには、大学生ボランティアやスタッフの継続的な確保が必須である。そうした状況のなかで、大学生ボランティアの中に神守中・天王中の卒業生が増えてきたことが何より嬉しい。この循環が、いつまでも続くことを望んでいる。

# 「学習支援を通しての青少年健全育成と地域の活性化」

—スタディーサポートクラブ（SSC）の活動を通して—

大 治 町

## 1 事業のねらい

- 家庭の事情等により家庭での学習が困難であったり、学習習慣や基礎学力が十分に身に付いていなかったりする中学生への学習支援をとおして

### 【学習習慣の定着】

生徒自身が自らつまずきに気づき、主体的に学ぼうとする姿勢を育てる。

### 【学び直し】

生徒自身が学び残しの克服をめざし、基礎基本の定着を図る。

家庭教育への支援、  
学校生活へのよい影響

- 学校支援地域本部（はるボラフレンズ）の活用、教員を志望する大学生や教員OBを含む地域住民が主体的に参加することをとおして

### 【地域の教育力向上】

「地域の子は地域で育てる」という気運を高める。

### 【やりがい・生きがいづくり】

ボランティア指導者自身が社会貢献をとおして、やりがいや達成感を味わう機会とする。

青少年健全成、  
地域の活性化

## 2 事業計画

### (1) 開催日時・場所

- ① 開催日時：毎月2回、日曜日の開催を原則として、年間25回実施予定
- ② 開催場所：大治町立西公民館(会議室)

### (2) 指導者

塾長（1名）、相談役（3名：教育長・教育委員・大治中学校長）、コーディネーター（2名）、ボランティア講師（14名）（地域ボラ8名・学生ボラ6名）

### (3) 指導内容・方法

- ① 「基礎・基本コース」と「自学・自習コース」の2つに分けて実施する。
- ② 「基礎・基本コース」では、講師が用意したプリントをもとに基本問題を講師に教えてもらいながら学習する。
- ③ 「自学・自習コース」では、生徒自身が持参した教材をもとに自主的に学習を進め、分からないところを講師に教えてもらう。

### (4) 学校支援地域本部とのかかわり

- ① 大治町学校支援地域本部内に「スタディーサポートクラブ（SSC）」を組織
- ② SSC開催に関わる庶務は、コーディネーターが担当
- ③ 講師は学校支援地域本部のボランティアとして登録

## 3 事業の実際

### (1) SSC開講までの経緯

- ① 平成27年9月～28年3月：3回の実行委員会を実施し実施計画について協議
- ② 平成28年1月～3月：各大学（教員養成大学）にボランティア募集案内を配布
- ③ 平成28年4月：中学3年生を対象に大治中学校をとおして、募集案内を配布

④ 平成28年5月：SSC講師打ち合わせ会→事業の趣旨・実施計画について

## (2) 学習活動の様子

基礎・基本コースでは、「学び直し」として復習プリントをもとに国・数・英の基礎学力の向上を図る。

初めに、力試しのプリント→採点→講師と共に基礎問題を解く→再度、力試しのプリント→採点、この学習ローテーションで単元を進めていき、生徒は、2回目の力試しのプリントで満点をとることを目指す。



プリントの採点をしてもらう

自学・自習コースでは、「学習習慣の定着」を目標に生徒が問題集などを持参し、講師に質問をしながら自学自習をする。教科は生徒の自主性に任せ、どの教科を学習してもよい。学習を進める中で分からないところが出てきたときは、挙手をし、講師に助言をもとめる。



分からない問題を教えてもらう

## 3 成果と今後の課題

SSCでは、毎回学習会終了後参加生徒全員にアンケートを実施している。参加した生徒の声は、次のとおりである。

- ・ 家と違い、みんなで学習するのでとても集中して学習することができた。
- ・ 分からないところがあるとすぐに講師の先生に聞けるのでとてもよい。
- ・ 家庭では、間違えた問題をそのままにして進めるけど、ここでは、きちんと教えてもらえるのでうれしい。

このように、参加生徒は一様にSSCに参加してよかったと感じている。また、基礎・基本コースに参加している生徒は、回を重ねるごとに自学・自習コースに変わってきている。参加生徒の集中度も徐々に高まっており、学習会の効果が表れているようである。

今年度、SSCが順調にスタートを切れた要因には、生徒の学力向上を図りたいという学校の思いと地域の学校を支援したいという思い、教育委員会の支援体制の3つがうまくかみ合ったことが大きい。特に、3年前からスタートした学校支援地域本部を中心とする学校支援ボランティア活動が地域と学校のつながりを深め、そのことがSSCを進める大きな力となった。

しかし、地域の子供の学力向上を図るためには、本当に支援が必要な子供に支援を広げていく必要がある。また、講師から、中学3年生では遅いのではないかという声が多く聞かれた。今後、他の学年にも学習支援を広げていくことも考えていく必要がある。

そのためには、まず、講師の確保が急務である。特に、学生ボランティアなどの若い力を巻き込むことが地域の活性化に大きく寄与すると考えられる。

これからも学習支援活動を継続発展させるために、学校、地域、教育委員会が共通の目的意識を持ち、より一層、連携を密にしていくことが大切である。

# 「常滑市地域未来塾の開設」

— 地域の教育力を活用し子どもたちの学力向上を目指す —

常 滑 市

## 1 事業のねらい

常滑市では、平成28年度に、学習が遅れがちな中学生を対象に、学習習慣の定着や、基礎学力の向上を目的とした「常滑市地域未来塾」を開設した。

開催にあたっては、地域の教育力を活用することを目指し、地域の中からコーディネーター及び学習支援員を募集し、地域の老人会等の協力を受けながら、地域活動の拠点である公民館で実施することとした。

## 2 事業計画

開催場所	青海公民館	南陵公民館
対象者	青海中学校区の中学生	南陵中学校区の中学生
学習支援員	2名（大学生2名）	2名（大学生1名、地域の方1名）
地域コーディネーター	1名	1名
申込定員	30名	30名
申込者数	11名	12名
内容	自習形式の学習支援塾を開設する。	
対象教科	国数英社理（当初は、国数英の3教科）	
開催日	9月～3月までの土曜日で全13回（2週間に1回程度）	
時間	午後1時30分～午後4時30分（3時間）	

※地域コーディネーターは、学習支援員の指導・助言にあたる。

## 3 事業の実際

### （1）事業開始にあたって

本事業の開始にあたっては、参加者及び学習支援員の確保が課題となった。生徒に対しては中学校で募集チラシを配付したが、南陵における当初の申込者は2名であった。学習支援員についても、当初6名の配置予定が2名の応募しかなく、学生ボランティアに直接依頼することで人員を確保した。



地域未来塾の様子

### （2）塾の様子

生徒の参加率は青海が70.5%、南陵が56.3%であった。参加している子どもたちは3時間の間、静かに集中して勉強に励むことができていた。地域未来塾の開催にあたっては、社会福祉協議会・更生保護女性会・老人クラブの方からの協力により、毎回開始前に軽食の差し入れがあり、子どもたちは喜んでいました。

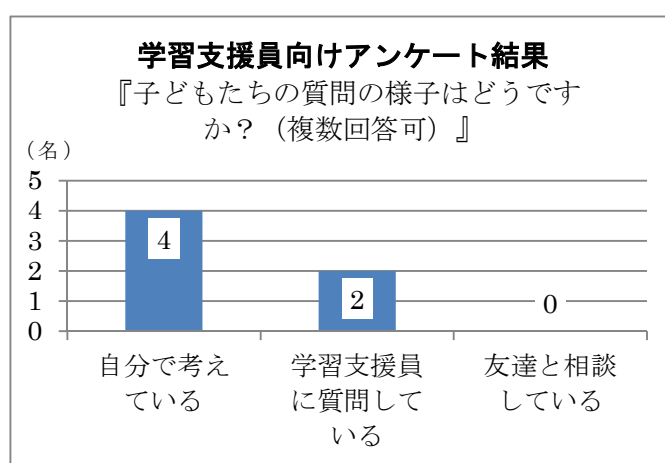
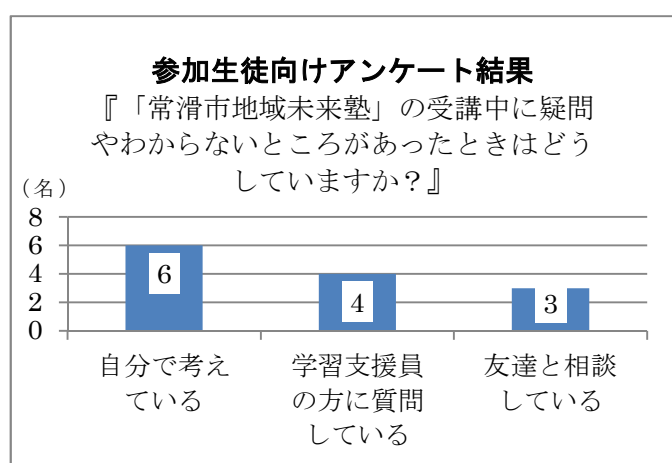
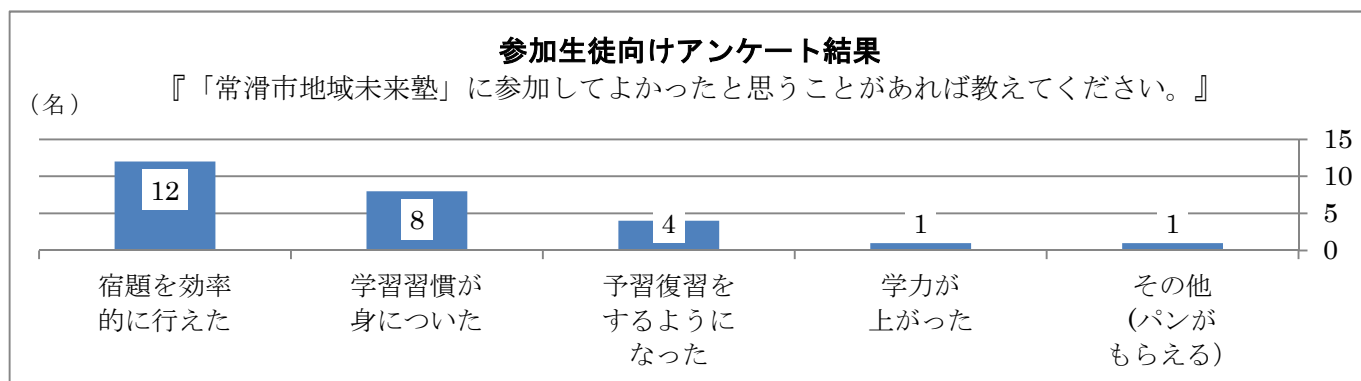


パンを配って下さる更生保護女性会の方



### (3) アンケートの実施について

ア 12月10日(土)に開催された8回目の未来塾において、参加生徒及び学習支援員に対してのアンケートを実施した。設問は「開催日時について」や「未来塾に対しての感想」、「次年度の参加希望」などとした。以下に結果の一部を紹介する。



#### 【その他参加生徒の意見・感想】

- 「とても集中できる環境なのでいいと思った」
- 「時間が丁度良く、宿題や予習復習もできて良かった。来年も参加したい」
- 「前よりも学習習慣が付き、予習復習などができたのでよかった。パンもうれしかった」
- 「みんなが静かだったので集中できた」
- 「分からない所は分かりやすく説明していただいたので、とてもうれしかった」
- 「集中して勉強ができるので、毎週楽しみにしている」等

イ このアンケート結果については、12月14日(水)の学習支援員・地域コーディネーターとの第2回打合せ会において検討した。学習支援員からの感想では「子供たちはとても集中して勉強できている」とのことであったが、「質問の手が挙がってこない」などの意見もあった。

## 4 成果と今後の課題

アンケート結果にあるように、勉強に集中できる環境を作り、子どもたちに学習習慣を身につけてもらうことができた。

今後の課題として、参加者及び学習支援員の募集方法や、地域コーディネーター・学習支援員の活用方法を検討したい。本事業は地域の教育力向上も目的としているため、もっと地域の力を活用し、地域が主体となって本事業を行えるような仕組みを考えていきたい。

# 「武豊町地域未来塾事業 ゆめたろう塾」

武 豊 町

## 1 事業のねらい

「学習習慣の確立と基礎学力の定着による町内中学生の学力向上」を目的に掲げ、家庭での学習が困難であったり、学習習慣が十分に身につけていなかったりする中学生のために、地域住民の力を生かし、原則無料の「地域未来塾」を開設し学習支援を行う。

## 2 事業計画

### (1) 開催日時・場所

平成28年8月から平成29年3月まで、原則毎月第1・第3土曜日 全15回  
9時30分から11時30分までの2時間  
武豊町民会館（ゆめたろうプラザ）情報考房 等

### (2) 指導者

公募による学習支援員（登録7人）及び町職員（学校指導主事、社会教育指導員等）

### (3) 指導内容・方法

町内の中学校に在学の中学1年生から3年生を対象に、自習形式を基本とし、学習支援員による個別指導を行う。

### (4) その他

生徒5人程度に支援員1人を配置する。  
参加費は原則無料とする。

## 3 事業の実際

5月1日号の「広報たけとよ」に学習支援員募集の記事を掲載し、6月末で3人の応募があった。7月に支援員及び町職員による運営会議を開催し、生徒5人程度に対し支援員1人は必要であることを確認し、当面全員参加で開催することとした。

7月上旬に町内2中学校の全生徒を対象に生徒募集のチラシを配布したところ、7月末までに49人と当初の予想をはるかに上回る申し込みがあったため、学校教育課の指導主事や社会教育指導員等の教員経験者にも支援をお願いした。また、外国籍の生徒の申し込みもあり、今年度より学校教育課に勤務している国際交流員にも参加をお願いし、7人体制でのスタートとなった。

その後、担当職員や町議会議員等の声かけや口コミにより、公募の学習支援員は7人となり、前述の職員と合わせて11人での体制で、数名欠席があっても運営できる状態となっている。学習支援員の内訳は、男性3人、女性4人。職歴としては、教員経験者4人、塾講師経験者1人、教育関連の大学生1人、教師・講師未経験1人となっている。



### 武豊町キャラクター「ゆめたろう」

本町には、昔から浦島太郎伝説にまつわる地名などが残っています。このため、平成6年に武豊町合併40周年・武豊港開港95周年を記念して、「浦島太郎」をモチーフとする武豊町のあたらしい「顔」として「ゆめたろう」を製作しました。ネーミングは公募106通の中より決定しました。このキャラクターマークには、町の目指す方向や、町としての個性（浦島太郎と亀には優しさ、素朴な風土。そして波には、自然の豊かさ・将来への広がり）が表現されています。

#### 4 成果と今後の課題

表 第10回までの参加生徒数及び学習支援員数一覧

回	1	2	3	4	5	6
開催日	8/6	8/20	9/3	9/17	10/1	10/15
生徒登録（人）	50	49	49	49	50	51
参加生徒（人）	32	32	27	23	31	26
出席率（％）	64.0	65.3	55.1	46.9	62.0	50.9
支援員登録（人）	3	5	5	6	6	7
参加支援員（人）	3	5	4	5	4	5
参加職員（人）	3	3	2	1	1	1

回	7	8	9	10	11～15	平均
開催日	11/5	11/19	12/10	12/17	—	—
生徒登録（人）	50	50	47	47	—	49.2
参加生徒（人）	23	33	19	19	—	26.5
出席率（％）	46.0	66.0	40.4	40.4	—	53.8
支援員登録（人）	7	7	7	7	—	
参加支援員（人）	4	5	5	7	—	
参加職員（人）	2	1	1	1	—	

12月末現在の参加生徒数は上記の表のとおり、最大出席数33人、最少出席数19人、平均26人程度、登録数の半数強の出席率となっている。学習支援員の数も概ね生徒5人に対して1人配置できているが、出席生徒数も変動があり、学習支援員を多く配置してしまうこともあった。

11月に保護者向けアンケートを実施した結果、土曜日の午前中で概ね好評であったが、「部活動との両立が難しい」との声もみられた。また、「月2回では少ないので、毎週開催してほしい」との意見が大半を占めた。開催場所については、ゆめたろうプラザから距離のある中学校の保護者から、学校に近い施設（中央公民館）で開催してほしいとの要望もみられた。また、「友達に刺激され家でも勉強するようになった」との回答もあった。

今後も安定した運営をしていく上で日程及び開催場所について検討していく必要があるが、学校区ごとに開催するためには学習支援員の増員が不可欠であり、大きな課題となっている。



# 「みよし未来塾」

みよし市

## 1 事業のねらい

家庭の経済的な状況や家庭教育力等の問題から、家庭学習の習慣が十分に定着していなかったり、学習が遅れがちであったりする中高生に対し、学習支援員による原則無料の学習支援を行う。参加希望生徒は、保護者の了解を得て事前登録し、基本的には自分で持ってきたテキストや課題を自主学習する。質問がある場合は、その場で指導を担当する学習支援員に教えてもらうことにより、分からなかったことを解決し、学習習慣を身に着けるきっかけの場とする。なお、成績の良し悪しに関わらず、勉学に励もうという意欲のある中高生にも学習の場として提供する。また、中高生に学習を教える学習支援員を募集し、指導・育成することで地域の教育力の向上につなげる。

## 2 事業計画

### (1) 開催日時・場所

#### ① 日時

平成28年8月16日から8月31日までの土曜日、日曜日、月曜日を除く10日間  
平成28年12月26日から12月28日までの3日間

#### ② 場所

図書館学習交流プラザ会議室

### (2) 指導者

学習支援員の募集は6名程度

### (3) 指導内容・方法

自分で持ってきたテキストや課題を自主学習する中学生及び高校生からの質問に、学習支援員がアドバイスをしたり、学習方法全般についての支援をしたりする。

### (4) その他

生徒の募集は各期間とも50名程度

市立中学校（4校）の生徒全員に募集案内を配布依頼

市内にある高校（1校）の各教室に募集案内を掲示依頼

市外の学校へ通う生徒のために広報誌でも生徒を募集

## 3 事業の実際

夏季には、生徒の申込が109名あり、募集人数の50名を大幅に上回ったため、会場をふれあい交流館（分庁舎）会議室に変更し実施した。参加日は自由としているため、部活動や私事により、1日平均46名の参加であった。学習支援員の申込は12名あったが、日によって出勤できる人数が変わり、1日平均で5名であった。そのため、市役所にいる指導主事に協力を依頼した。

冬季は、生徒の申込人数が38名であった。当初の予定人数より若干少ない程度ではあるが、夏季の実施に比べると大幅に減った。3年生の申込みが少なく、受験生は民間の学習塾へ通って学習するようになったことも要因と考えられる。1日平均では24名の参加であった。学習支援員の申込は11名あり、1日平均10名であったため、生徒にとっては、学習支援員に聞きたいときにすぐ聞くことができる状況となった。

#### 4 成果と今後の課題

今年度初めて未来塾を実施したため、生徒の申込みはあるのか、学習支援員は集まるのか等、手探りの状態での事業であった。未来塾に参加した生徒へのアンケートからは「家で勉強するより何倍もはかどりました」、「1対1で丁寧に教えてもらえて良かった」といった意見が多く、概ね好評であったが、検討しなければならない事項も多々あった。今回の夏休み期間は休み後半に実施したが、後半は学校への課題の提出期限も過ぎており、何より勉強習慣を身に着けるには休み前半に実施したほうがいいかもしれない。ただし、前半は部活動の大会があるので、部活動と重複する可能性がある。生徒へのアンケートからも8月下旬の実施がいいといった意見が多くあったが、まだ未来塾を1回実施しただけであるので、来年度は夏休み前半に試験的に実施し、今後の開催日時を検討する予定である。

会場の確保にも労力を要した。本市では学校に負担をかけないという考えから、学校を会場とはしておらず、市の施設を会場としている。申込生徒が予定よりも多かったということもあるが、当初会場に予定していた図書館の会議室を、いくつも何日も連続して予約することが難しく、会場探しに苦労した。また、申込時に確認した通塾方法では、自転車で来る可能性のある生徒は71名もあったので、施設管理者と協議し、臨時駐輪場を設ける必要があった。未来塾のためだけの臨時駐輪場を、毎日設営する必要があった。

本市では対象生徒を中高生としており、学習支援員からは高校生を教えるのは教科によっては難しいという意見がある。実際、高校生の参加は数人ではあったものの、高校生も対象ということで、学習支援員となることをためらう人がいるかもしれない。また、学習支援員を募集した際、教科によってはその教科を得意とする学習支援員が集まらないといけなないので、自主学習する教科を限定することも考えた。しかし、生徒へのアンケートでは数学、英語の希望が多いものの、他の教科もそれなりに希望があった。今回については5教科を学習支援員がカバーすることができ、来年度も教科の限定はしない予定であるが、今後学習支援員に教科の偏りが出た場合のことも考えておかなければならない。

他にも改善すべきことは多々あったが、これから回を重ねるごとに、生徒たちにとってより良い環境を作っていくたい。



夏季の実施状況



冬季の実施状況

# 「学校・福祉・地域の連携による学習支援」

～すべての子供が夢と希望を持ち活躍する共育の推進をめざして～

田 原 市

## 1 事業のねらい

学習の遅れがちな中学生等を対象として放課後等に受講料無料の学習支援を行い、学習習慣の確立と基礎学力の定着、学力の向上を図る。

① 何らかのつまづきにより授業がわからなくなってしまった子供への学び直し支援をすることにより、基礎学力の定着を図る。

◎ どこを勉強したらよいかわからないという中学生を中心に参加を呼びかけて「学習教室」を開催し、苦手意識を取り除くことを目的とする。

◎ 進級が難しいと思われる高校生を中心に参加を呼びかけて「学習教室」を開催し、中退者や不登校生徒を減少させることを目的とする。

② 貧困な家庭の子供の学習支援等を行うことにより貧困の連鎖を防ぐ。

◎ 地域福祉課と連携して、生活困窮者自立支援制度に基づいた学習支援事業(スクールソーシャルワーカー設置事業)を実施し、家庭環境も整えながら支援する体制をつくる。

◎ 問題のある家庭の子供たちの学習支援を行うため、児童養護施設で「学習教室」を実施する。

※ 福祉部局と教育部局が連携することにより、それぞれの強みを生かして弱みを補完しあう体制を構築することを目的とする。

## 2 事業計画

(1) 受講生の募集について

◎ 中学校及び高等学校…学校に協力を依頼し、チラシを生徒に配布したり校内にチラシを掲示したりして募集。

◎ 児童擁護施設…施設職員から入所児童及び生徒に趣旨を伝えてもらい募集。

(2) 講師について

教員 OB や学習支援の実績のある地域住民等を講師として実施。

(3) 開催期間、時間、参加人数等

実施場所	参加人数	実施期間	予定回数、開催時間等	
田原中学校	1年 7人 2年 9人 3年 10人	5月19日 ～3月23日	31回、毎週木曜日の放課後1時間 夏季休業中は5日間	
東部中学校	1年 8人 2年 4人 3年 9人	5月19日～ 2月23日	20回、毎週木曜日の放課後1～2時間 夏季休業中は7日間	
福江市民館	中学生	1年 13人 3年 1人	6月2日～ 3月30日	42回、毎週木曜日の午後5時以降来られる 時間～午後7時
	高校生	10人程度	4月～3月	46回、毎週金曜日の午後5時～午後8時
赤羽根学園	中学 3人 高校 1人	5月22日～ 3月26日	42回、毎週日曜日午後8時～10時	

(4) 内容等

◎ 数学・英語を中心としているが、苦手な科目で教えて欲しい科目としている。

◎ 自学を基本にし、わからないところについて講師から教えてもらう。

### 3 事業の実際（実施状況）

◎ 初回に学習のコツについて説明をする。また、自分たちでルールを決めて学習するように指導し、主体的な学習ができるようにしていくため、それぞれの講師が工夫をしている。

- ・数学・英語… 自分が理解できていないところを見つけ、自分がわからなくなった学年まで戻って学び直しをする。
- ・社会・漢字… 自分の覚え方を見つける。繰り返して書くことにより目や耳で覚える方法や、内容を自分の考えでまとめることで覚える方法など、自分にあった方法を見つける。
- ・ルール… 入室したら友達とふざけたり、雑談したりしない。携帯電話等は触らない。

◎ 希望者を対象としているため、出席率は高い。

### 4 成果と今後の課題

(1) 成果と課題について

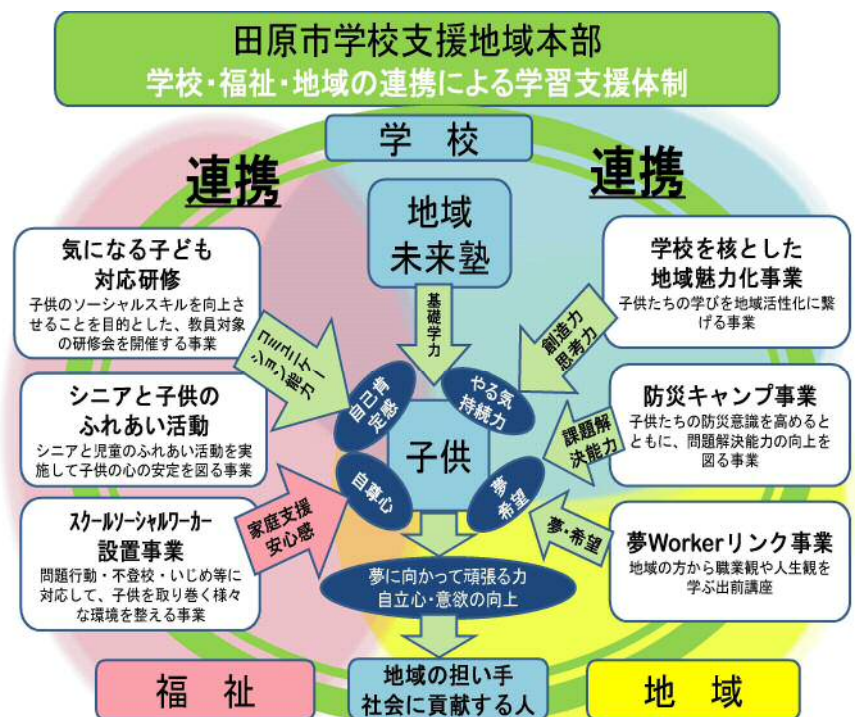
- ◎ 参加している子供の評判は良い。勉強がわかるようになり楽しいという声が聞かれる。
- ◎ 定期テストの点数が上がったことにより、積極的に学習するようになった。
- ◎ 子供たち同士で教え合う姿が見られるようになった。
- ◎ 毎週1回・放課後概ね1時間としているが、学校行事等でできないこともあり、学習習慣の定着にはつながりにくいという意見もある。
- ◎ 希望者を募るため、学習が遅れがちな子供や貧困な家庭の子供の参加率は高くない。
- ◎ スクールソーシャルワーカーと連携した学習支援として実施しているが、問題のある家庭との関係づくりには時間がかかり、現在は未来塾参加につなげることまではできていない。

(2) 今後について

- ◎ 学習の遅れがちな子供を呼び込むための工夫、子供自身の意欲が出るようなしくみ、そして、子供たちが、自分のやりたいことを見つけて夢や希望を持ち、目標を達成するために頑張る力をつけていくことが必要。学校支援地域本部が実施している様々な事業と連携させる体制の検討をしていく。
- ◎ 貧困な家庭の子供の学習支援につなげるための検討、スクールソーシャルワーカーを中心として、学校・福祉・地域の連携について検討をしていく。



たはら地域未来塾の様子



## 地域コーディネーター研修会

「地域未来塾」の取組内容について理解を深め、地域学校協働活動の推進に向けて、地域の教育力をどうコーディネートしていくかについての研鑽を深める研修会を開催した。

- 〔主催〕 愛知県教育委員会
- 〔参加者〕 地域コーディネーター、行政担当職員等 67名
- 〔日時〕 平成28年11月22日（火）午後1時30分から午後4時30分まで
- 〔会場〕 愛知県生涯学習推進センター（研修室A）
- 〔内容〕 ◇地域未来塾実践発表

①『学習支援を通しての青少年健全育成と地域の活性化

ースタディーサポートクラブ（SSC）の活動を通してー』

大治町学校支援地域本部コーディネーター 佐藤 洋 氏

②『学校・福祉・地域の連携による学習支援

～すべての子供が夢と希望を持ち活躍する共育の推進をめざして～』

田原市教育委員会学校教育課課長補佐 伊東 成子 氏

◇講義「地域コーディネーターの役割」

清須市学校支援地域本部統括コーディネーター 武島 敦子 氏

◇指導講評

国立大学法人愛知教育大学副学長・教育学部教授 大村 恵 氏



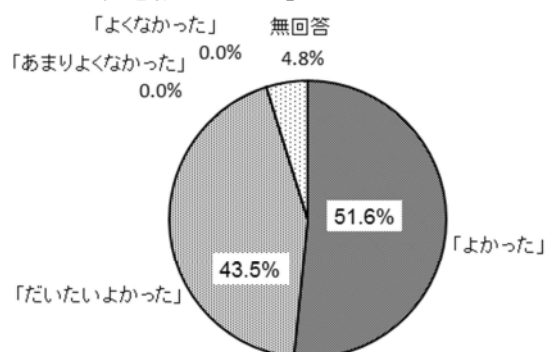
実践発表後の質疑応答



講義「地域コーディネーターの役割」

〔参加者の声〕 \*回答者 62名（回答率 92.5%）

「研修会全体を振り返って」



- ・地域未来塾のことがよく分かった。
- ・コーディネーターとして継続して活動すれば、小さな力でも大きな力となるかもと勇気をもらえた。
- ・行政の方と捉え方や考え方が違った意見交換ができたのでよかった。
- ・各コーディネーターが実際にどのようなことを行っているのかを聞けるとよかった。
- ・大切な内容が多くあったので、しっかり時間をとってやってもらえるとよい。



平成28年度

## 学校支援地域本部事業報告書

平成29年3月発行

愛知県教育委員会生涯学習課

〒460-8534 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号

電話 052-954-6780 (ダイヤルイン)

ファックス 052-954-6962